

## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：中島威夫

<b>事業名</b> 一般国道12号 岩見沢道路 <b>起終点</b> 自：北海道岩見沢市幌向町 至：北海道岩見沢市6条東14丁目	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 <b>延長</b> 北海道開発局 14.7km
<b>事業概要</b> 一般国道12号は、北海道の中核都市である札幌市を起点とし、道北圏の中核都市である旭川市に至る延長約14.5kmの主要幹線道路である。このうち岩見沢道路は、交通混雑を緩和し、日常活動圏中心都市へのアクセス向上、物流効率化の支援、等に寄与することを目的とした、延長14.7kmの2次改築事業である。		
<b>S45年度事業化</b>		<b>S48年度都市計画決定</b> (S61年度変更)
<b>S46年度用地着手</b>		<b>S46年度工事着手</b>
<b>全体事業費</b> : 約274億円		<b>事業進捗率</b> : 91%
<b>計画交通量</b> : 39,000台/日		<b>供用済延長</b> : 10.3km
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> : (事業全体) 7.6 (残事業) 47.2	<b>総費用</b> : (残事業)/(事業全体) 18/348億円 <b>事業費</b> : 18/333億円 <b>維持管理費</b> : 0/16億円
<b>総便益</b> : (残事業)/(事業全体) 847/2,629億円 <b>走行時間短縮便益</b> : 842/2,594億円 <b>走行費用減少便益</b> : 4/31億円 <b>交通事故減少便益</b> : 1/4億円		<b>基準年</b> : 平成15年
<b>感度分析の結果</b> 事業全体について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=8.2 (交通量+10%) B/C=7.0 (交通量-10%) 事業費変動 : B/C=7.2 (事業費+10%) B/C=8.0 (事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=5.6 (事業期間+20%) B/C=8.7 (事業期間-20%)		
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保(年間渋滞損失時間の削減が期待される) ・国土・地域ネットワークの構築(日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる)		
他10項目に該当		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 岩見沢市を始めとする関係9市16町1村の首長で構成される北海道空知地方総合開発期成会より、毎年事業促進の要望を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 岩見沢市街では、国道周辺に商業系用途地域が拡大。幌向、上幌向地区にも用途が広がっている。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 昭和56年度までに、岩見沢市街部が完成。平成11年度までに、上幌向、幌向市街部が順次完成供用しており、現在までに、渋滞ポイントを含むL=10.3kmを供用している。平成15年度には、L=0.7kmを暫定供用している。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 引き続き用地取得が順調に進めば、平成19年度頃に全線供用の予定である。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 再生材の活用、耐流動性舗装の採用による耐用年数の向上等によりコスト縮減を図っている。		
<b>対応方針</b> : 事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
<b>事業概要図</b>		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。